

愛知県アレルギー疾患医療調査集計表：令和3年7月1日現在【医療圏ごとの紹介実績：令和2年4月1日～令和3年3月31日】

(対象：アレルギー科を標榜する医療機関(専門医が在籍する医療機関を除く))

医療圏	市町村	対象医療機関数	回答医療機関数	診療所			病院			拠点病院		
				から紹介された(①)	に紹介した(②)	から逆紹介された(③)	から紹介された(④)	に紹介した(⑤)	から逆紹介された(⑥)	から紹介された(⑦)	に紹介した(⑧)	から逆紹介された(⑨)
名古屋・尾張中部医療圏	名古屋市、清須市、北名古屋市、豊山町	129	52	23	14	7	9	28	16	5	22	14
				44%	27%	13%	17%	54%	31%	10%	42%	27%
海部医療圏	津島市、愛西市、弥富市、あま市 大治町、蟹江町、飛島村	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
尾張東部医療圏	瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市 長久手市、東郷町	28	9	4	4	1	2	1	1	0	2	1
				44%	44%	11%	22%	11%	11%	0%	22%	11%
尾張西部医療圏	一宮市、稲沢市	29	10	3	4	3	1	6	3	0	3	1
				30%	40%	30%	10%	60%	30%	0%	30%	10%
尾張北部医療圏	春日井市、小牧市、犬山市、江南市 岩倉市、大口町、扶桑町	44	17	7	8	4	3	7	5	2	3	3
				41%	47%	24%	18%	41%	29%	12%	18%	18%
知多半島医療圏	半田市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町 武豊町、常滑市、東海市、大府市、知多市	37	17	7	8	5	6	9	6	4	10	4
				41%	47%	29%	35%	53%	35%	24%	59%	24%
西三河北部医療圏	豊田市、みよし市	18	7	5	4	2	3	3	3	1	2	1
				71%	57%	29%	43%	43%	43%	14%	29%	14%
西三河南部東医療圏	岡崎市、幸田町	19	10	5	5	2	2	6	5	1	3	3
				50%	50%	20%	20%	60%	50%	10%	30%	30%
西三河南部西医療圏	碧南市、刈谷市、高浜市、安城市、知立市 西尾市	29	15	6	3	1	2	7	6	0	5	3
				40%	20%	7%	13%	47%	40%	0%	33%	20%
東三河北部医療圏	新城市、設楽町、東栄町、豊根村	8	4	2	3	0	1	2	2	1	0	0
				50%	75%	0%	25%	50%	50%	25%	0%	0%
東三河南部医療圏	豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市	25	8	4	1	1	0	5	3	0	1	0
				50%	13%	13%	0%	63%	38%	0%	13%	0%
合計	対象医療機関内訳	373	149	66	54	26	29	74	50	14	51	30
	各項目の実績有りの数/回答医療機関数			44%	36%	17%	19%	50%	34%	9%	34%	20%

※①～⑨は「愛知県アレルギー疾患に関する調査票」2による。

注1) 下段のパーセンテージは、各圏域の、回答医療機関数に占める実績有り医療機関の割合。

注2) 対象医療機関の内訳：病院8 診療所365 回答医療機関の内訳：病院6 診療所143 回答率：39.9%

注3) 回答病院の内訳：内科2、アレルギー科3、小児科1

回答診療所の内訳：内科47、呼吸器内科3、小児科34、皮膚科23、耳鼻咽喉科34、眼科1、その他1

愛知県アレルギー疾患医療調査集計表：令和3年7月1日現在【医療圏ごとの各項目実施医療機関数及び人口10万人当たり実施割合】

(対象：アレルギー科を標榜する医療機関(専門医が在籍する医療機関を除く))

医療圏	市町村	人口	医療機関数	回答医療機関数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					食物経口負荷試験の実施	プリックテストの実施	アレルギー免疫療法の実施	パッチテストの実施	生物学的製剤による治療の実施	看護師によるスキンケア指導	薬剤師による治療薬服薬・吸入指導	栄養士による食物アレルギー栄養指導	エピペン®自己注射の指導管理	「生活管理指導表」の作成	小児アレルギーエディター在籍
名古屋・尾張中部医療圏	名古屋市、清須市、北名古屋市、豊山町	250万人	129	52	4	1	26	5	12	17	9	3	33	28	0
			5.16	2.08	0.16	0.04	1.04	0.20	0.48	0.68	0.36	0.12	1.32	1.12	0.00
海部医療圏	津島市、愛西市、弥富市、あま市 大治町、蟹江町、飛島村	32万人	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
尾張東部医療圏	瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市 長久手市、東郷町	48万人	28	9	0	0	2	3	1	2	2	0	3	5	0
			5.83	1.88	0.00	0.00	0.42	0.63	0.21	0.42	0.42	0.00	0.63	1.04	0.00
尾張西部医療圏	一宮市、稲沢市	51万人	29	10	0	0	4	2	0	5	0	0	3	6	0
			5.69	1.96	0.00	0.00	0.78	0.39	0.00	0.98	0.00	0.00	0.59	1.18	0.00
尾張北部医療圏	春日井市、小牧市、犬山市、江南市 岩倉市、大口町、扶桑町	73万人	44	17	1	1	8	3	6	6	1	1	12	12	0
			6.03	2.33	0.14	0.14	1.10	0.41	0.82	0.82	0.14	0.14	1.64	1.64	0.00
知多半島医療圏	半田市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町 武豊町、常滑市、東海市、大府市、知多市	63万人	37	17	0	0	8	0	0	4	5	2	7	13	1
			5.87	2.70	0.00	0.00	1.27	0.00	0.00	0.63	0.79	0.32	1.11	2.06	0.16
西三河北部医療圏	豊田市、みよし市	48万人	18	7	1	0	4	1	1	1	0	1	4	7	0
			3.75	1.46	0.21	0.00	0.83	0.21	0.21	0.21	0.00	0.21	0.83	1.46	0.00
西三河南部東医療圏	岡崎市、幸田町	43万人	19	10	0	0	4	0	2	3	3	0	6	8	0
			4.42	2.33	0.00	0.00	0.93	0.00	0.47	0.70	0.70	0.00	1.40	1.86	0.00
西三河南部西医療圏	碧南市、刈谷市、高浜市、安城市、知立市 西尾市	70万人	29	15	1	2	7	2	3	5	4	1	8	11	0
			4.14	2.14	0.14	0.29	1.00	0.29	0.43	0.71	0.57	0.14	1.14	1.57	0.00
東三河北部医療圏	新城市、設楽町、東栄町、豊根村	5万人	8	4	0	0	2	0	2	0	0	1	2	2	0
			16.00	8.00	0.00	0.00	4.00	0.00	4.00	0.00	0.00	2.00	4.00	4.00	0.00
東三河南部医療圏	豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市	69万人	25	8	3	2	3	2	2	4	3	1	4	7	0
			3.62	1.16	0.43	0.29	0.43	0.29	0.29	0.58	0.43	0.14	0.58	1.01	0.00
合計		752万人	373	149	10	6	68	18	29	47	27	10	82	99	1
			4.96	1.98	0.13	0.08	0.90	0.24	0.39	0.63	0.36	0.13	1.09	1.32	0.01
			各項目の実施医療機関数/回答医療機関数					7%	4%	46%	12%	19%	32%	18%	7%

注1) 下段の割合は、各圏域の、人口10万人当たりの実施機関数。(人口は令和3年7月1日現在現在)

注2) 対象医療機関の内訳：病院8 診療所365 回答医療機関の内訳：病院6 診療所143 回答率：39.9%

注3) 回答病院の内訳：内科2、アレルギー科3、小児科1

回答診療所の内訳：内科47、呼吸器内科3、小児科34、皮膚科23、耳鼻咽喉科34、眼科1、その他1

アレルギー疾患医療の診療を行う上で特に力を入れていること

〔149療機関のうち31療機関から回答あり〕

主 な 内 容
<p>食物アレルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーの原因としての食べ物、飲み物の特定に留意している。 ・不必要な食物摂取制限をしない。 ・アナフィラキシー（食物性）の鑑別判断、自然耐性の獲得方法の確立 ・食物アレルギーと耳鼻疾患との関連
<p>気管支ぜん息</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぜん息患者に対する吸入指導。 ・アレルギー免疫療法
<p>アレルギー性鼻炎・花粉症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鼻アレルギーに対する手術療法。 ・スギ花粉、ハウスダストの舌下免疫療法。 ・アレルギー免疫療法 ・舌下免疫療法、レーザー治療、服薬指導、抗原回避の説明などを医師、薬剤師や看護師などで対応。 ・トリクロロ酢酸による鼻粘膜焼灼術。
<p>アトピー性皮膚炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期のスキンケア。 ・皮下免疫療法
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステロイドを使用しても早期沈静化 ・既往歴と診察時所見 ・原因を可能な限り特定し、一旦除去する。生活面での改善点を見つける。小児は成長を見つつ長期的に診る。 ・家族への指導 ・意味のない検査や画一的な検査は行わない。 ・できるだけ少ない検査で治療を行う。 ・根拠のない情報は話さない。 ・手術予定患者の薬剤アレルギー ・今年ゾレアを使用し効果は確認したが、診療所でやるにはあまりに薬価が高く、患者に勧めるのは気が引けた。 ・生物学的製剤による治療 ・アレルギーの特定とIgEなど過敏性の低減を目指して診療している。 ・患者へ病気について丁寧に説明すること。 ・漢方治療